



道 縣 の 奥 北 山

なのもるたれらせ鑿開ひ沿に崖断の川匂酒分部大は道縣本てしに部一の道縣る至に面夕樓殿即りよ北山
りれ陷に態状き如のく斯所る至め爲る



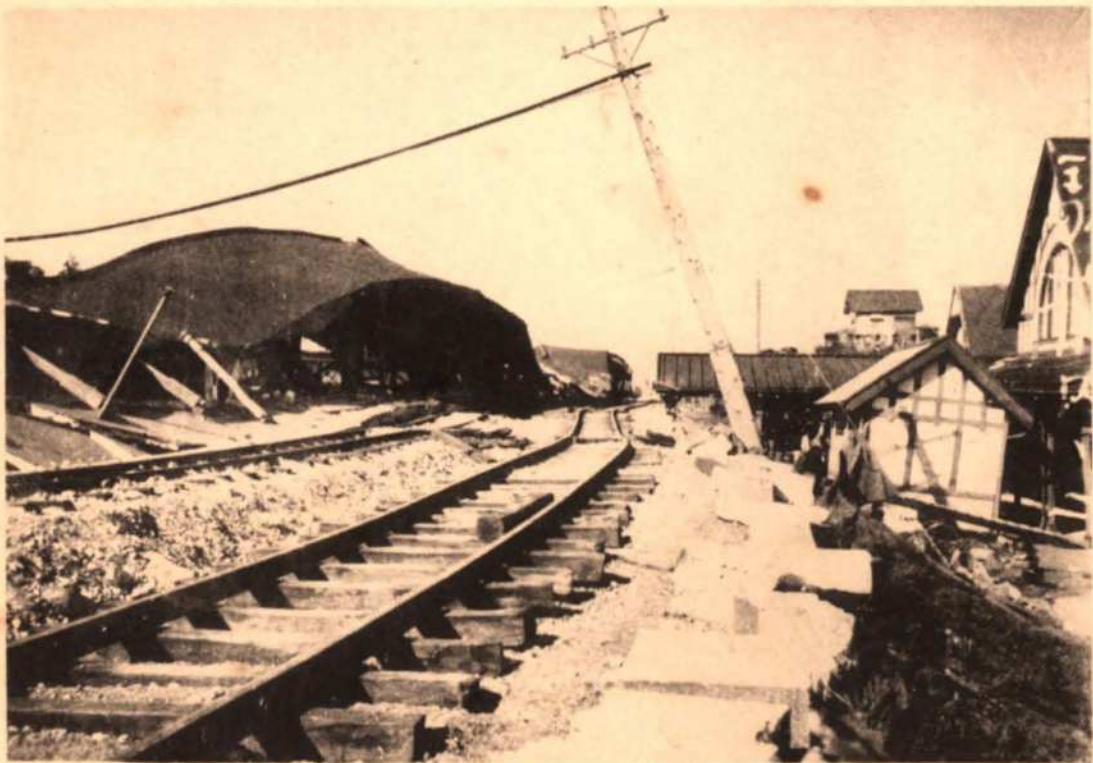
署 察 警 原 田 小

木くしだ甚害被てつ従れき稱迄とりせ途に上以リミ千五度速加てしくし激も最度程の震地は方地原田小
す示をるれなと家平てれ濱が署察警の建階二造木てしに例一其は圖



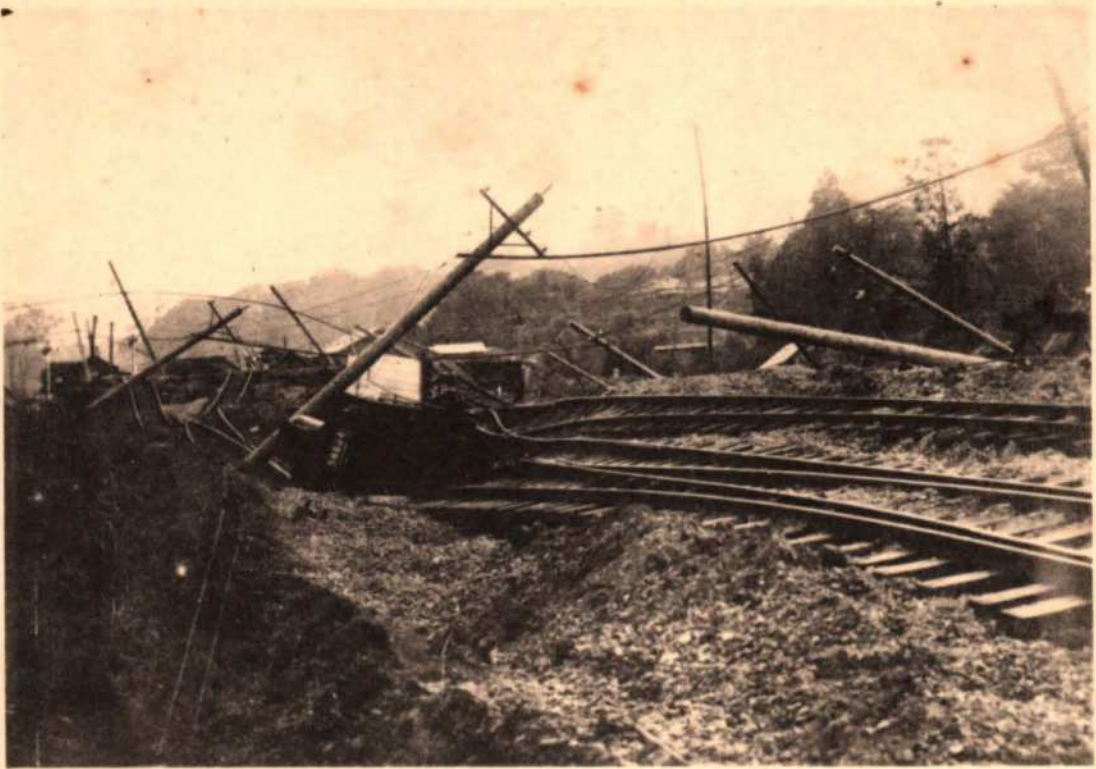
前場車停原田小

ため極な賑般べ並な軒等所合待店茶の多数はに前驛やるす通開道鐵め爲るな開支の根箱は場車停原田小
りな状態の壊倒築建新の等之は圖り



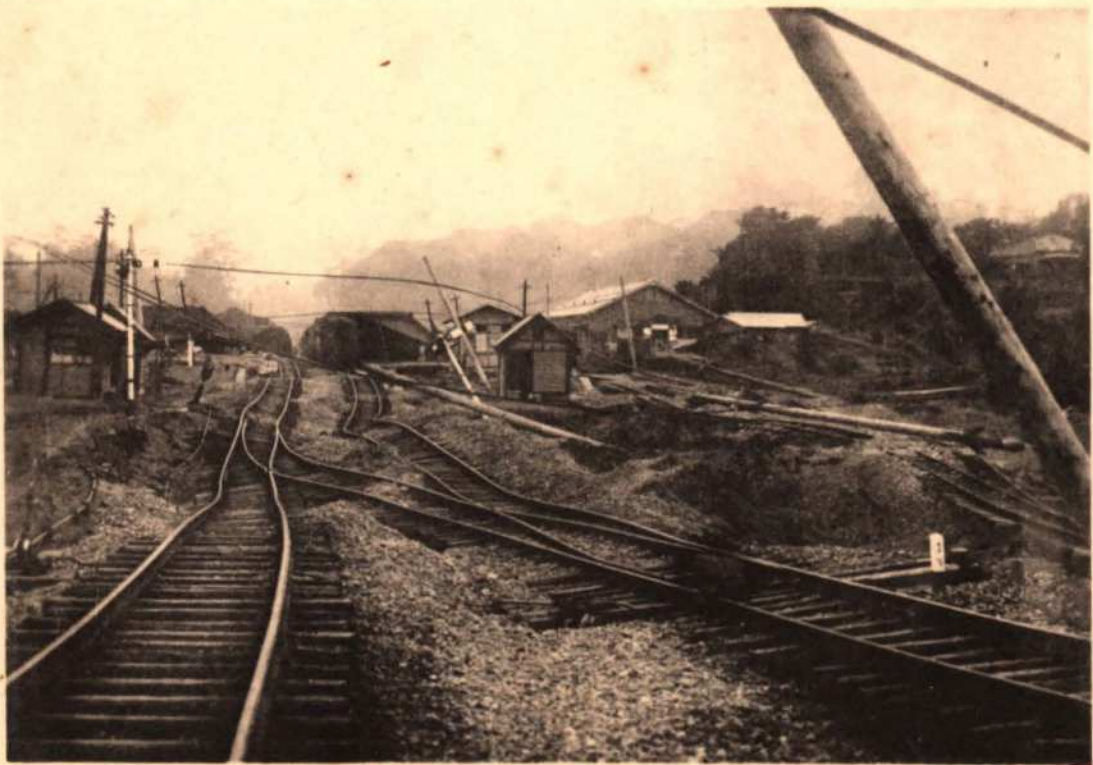
場車停原田小

りなムーホトツラブは左面背場車停はるな右の踏線央中てしに状態の内構驛原田小きなし間後築新



前 全

りな様有るたれ倒の車籠汽び及壊彼の路線の近附口東場車停原田小



前 全

りなのもるため跳りよ口東を状態の内構場車停原田小



町 原 田 小

りなめ爲るせ壊破の水下はるせ落陥部央申てしに狀櫛のり通町字十



前 全

りな様有るたれ倒の木並櫻端の漆趾城舊原田小



前 全

りなのもろせ潰倒に口濠が部一の物建るれなと邸用御は在現てしに趾城舊原田小



前 全

イ示を標有るせ倒顛の樑鐵るあに可幸



前 全

りれ被もな災火てしにのしるせ遇遭に害災中事工築建土凝混筋鐵し恰てしに行銀商通原田小るあに町幸



道 國 根 箱

す示をるせ壞崩の道國も入に根箱るたれらせ聖開ひ沿に川早の内地村窪大西の原田小



前 全

りな近附場留停本湯は家人るゆ見に方前でしてに況状の壊破道國るため跳を流上りよ橋枚三村本湯



前 全

す示を標右の壊崩道國の間る至に潭の塔りよ本湯内地村本湯



前 全

中此は臺一車動自の中行通もか恰てしに置位の路道は崖の方左てしに所箇境崩道國の口入坪の塔村本湯
ふ云とりたれらめ埋に



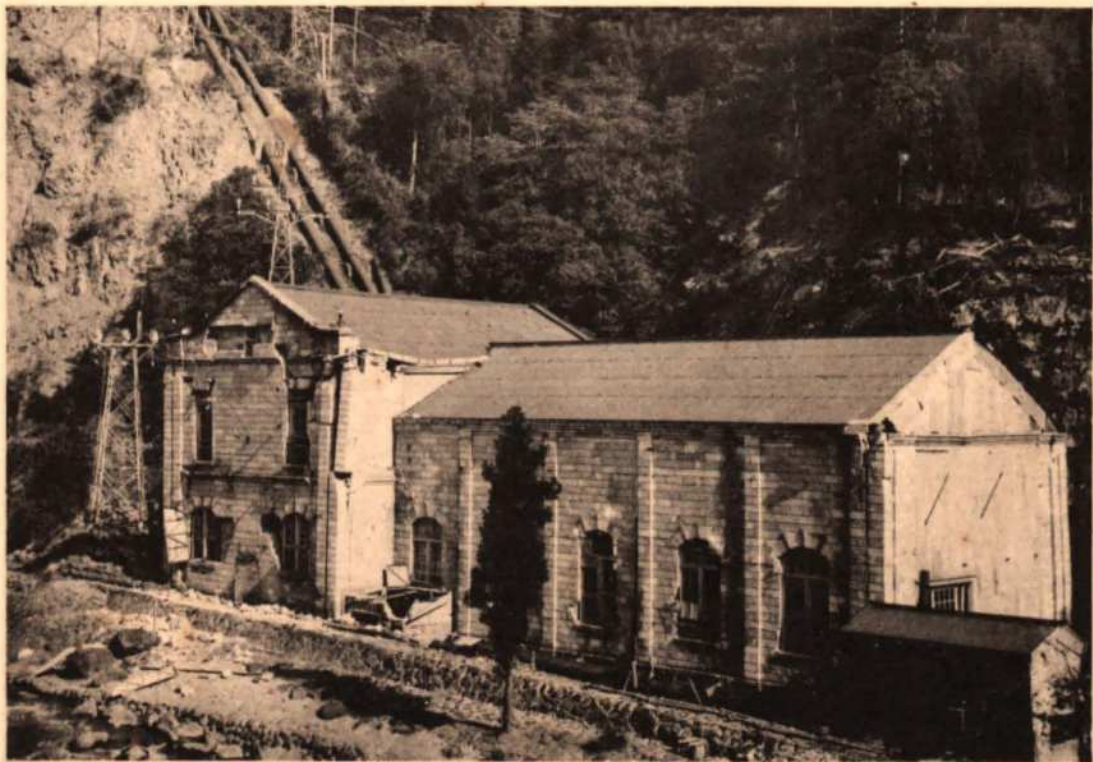
澤 の 塔

りな狀慘の近用橋緒の玉澤の塔るな一の場泉温根箱



前 全

りな湯の一び及権翠荘館旅泉温は築建大の面前てしに様有るせ壞崩のし通切道國



所電發社會式株燈電京東

りな況狀の害被所電發社會式株燈電京東るあに潭の塔



箱根國道

塔の深部國道潰況に於ては、早川の崖に臨み、場所を前の方に、あはる危ふく難逃たれる自動
 車が前後道路を失ひ、往生のもるなり



箱根登山電車

小田原電鐵株式會社が、巨万の費用を投じて經營せる全國無比の登山電車も、甚大の被害を蒙る線も
 中路の多額を費する要る道、被る害輕微なり、不幸の中、其は、山中鐵橋の前、入が
 口を閉さるたれしを示す



前 全

を石台にか僅れば拂り取め爲の石岩るたれき出し甲りよ部上か脚橋の橋鐵ろせ架に流溪中路線車電山登
りな観奇るたれらへ支り依にルーレてし残



前 全

る見をるせ垂懸に腹山のルーレ潰欠は路線てしに状態の曾所號信台人仙車電山登



鳴ヶ堂

りれ蒙を害慘の壊倒屋家とれ崩崖め爲しり右に縁川早ゝる流を底の崖断の尺百數は場泉温鳴ヶ堂根箱



前全

りな館旅泉温るぞ落墜壊倒はるな腹中方右、部一の遺園は都上方左てしに狀慘の鳴ヶ堂るた見りよ岸對



下ノ宮

崖及び壊倒のルテホ屋瓦奈方前中央もなく如がき無狀異見一てしに景全の後直災震場泉温下ノ宮根箱
る足にるむ認をしりあ害被當相りよに等屋家るた潰るあに中の



前全

りな状態の壊倒館洋ルテホ屋瓦奈館族泉温下の宮



倉 底

温は方左中圖、りな出演な状態の落壁壊倒は屋家め爲しりあに上壁絶るため臨に川早は壞泉温倉底根箱
りな屋葛館旅泉



前 全

りな状態の胸成館旅泉温倉底



特 二 号 國 道

が梁橋の内地村野城宮中道國同は圖、ふ云と道國號二特を道國るす達に場殿御の縣岡静りよ下の宮根箱
りな況状の害被るな奇珍るたじ生め爲の壊破壘橋兩



山 崩 れ

は圖、りためしで生をれ崩山き如のく斯に所る至地山るな急配勾は崖地
りな木火のへ抱敷もれ何はるたれ倒てしに縁川早の内地村野城宮根箱



特 二 号 國 道

箱根宮城野村内地に於ては早川と大谷の合流點附近に於ては遺蹟の遺蹟に於ては斜腹に於ては



全 前

前圖の左方へ連続すべし寫眞なり



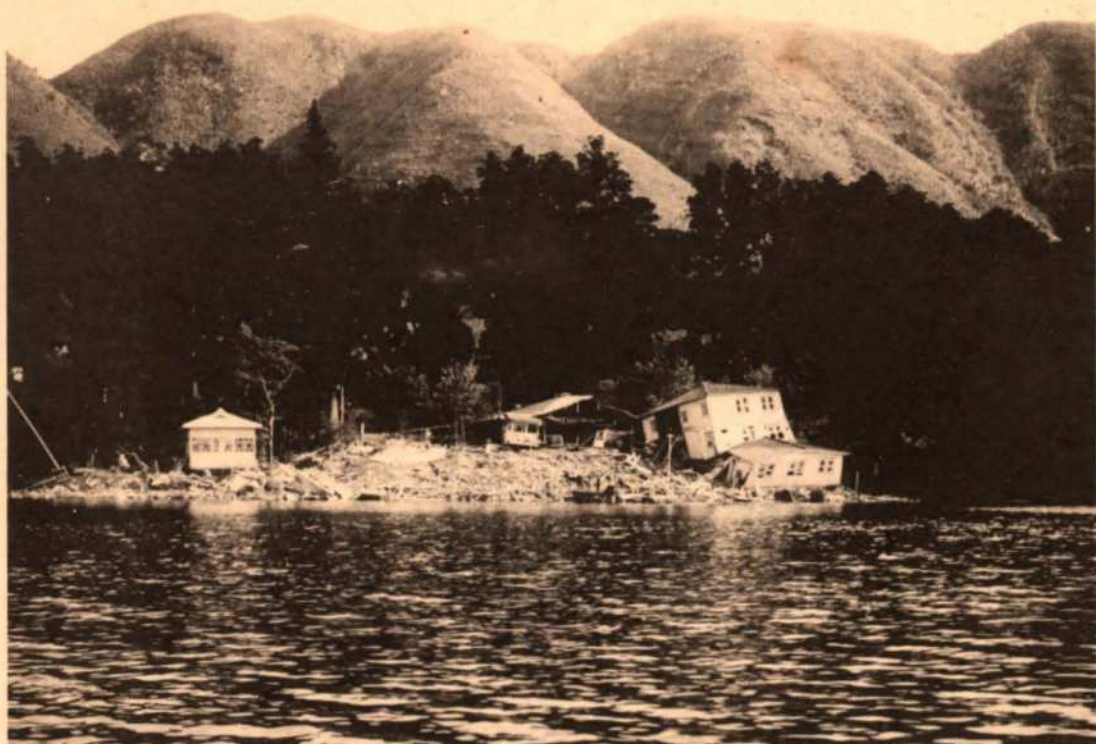
前 全

りなのもるため肌の向に流下りよ流上を所場の圖前



前 全

す示を操有るせ瘵荒が所場の景絶き深谷り追山はて嘗てしに近附所場の圖前



箱 根 町

箱根山上千縁の湛へ神祕的な芦の湖の如き箱根町も亦地震の爲めに深く打撃を蒙り、
元箱根富士湖より眺るに、元箱根富士湖より眺るに、元箱根富士湖より眺るに、



全 前

箱根町の惨状は、元箱根富士湖より眺るに、元箱根富士湖より眺るに、元箱根富士湖より眺るに、



ルテホ根箱

へ添を観美に大てしに館洋西大一の建階三しせ功竣に前直災震はルテホ根箱るたへ壁に畔湖の芦町根箱
りな憾遺はしせ潰倒く如のく斯もるなのもし



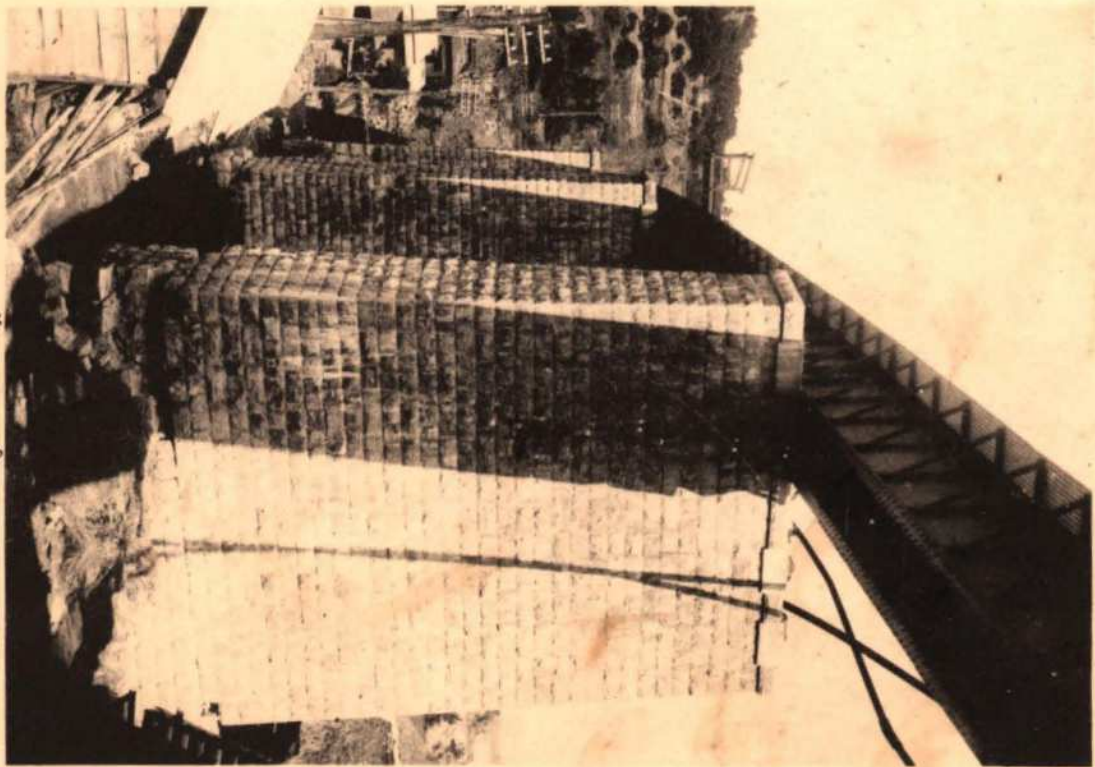
橋川早

橋桁の土凝混筋縦るたれらけ架く近に口河の川早端西の原田小中道縣海熱謂所るす途に海熱りよ原田小
りな様有るたけ架を橋版てし用利を抵舊るせ落墜は圖てしに



橋 鐵 橋 石

しく無し何幾後功竣し設架てり切横を上落部橋石村浦片の近附霧川早てしに一の橋鐵大の中線海熱道渡
りな桁備るせ落墜儘るたけ付取を木枕、ルーレはるゆ見く如の牙梯中圖りれ掌を害災て



し波物操るせ構組は部上れり断切てに部根し脚橋大より近に尺百

前
全



神 米 村 浦 片

築の路線道鐵は砂上るたれき出押ひ沿に流溪の部背てしに落部るれ蒙を害慘ぐ次に川府根中線沿線海熱
りな砂土此はるゆ見く如の山の前手中圖、りたし没埋な分部大の落部てへ越り乘な堤



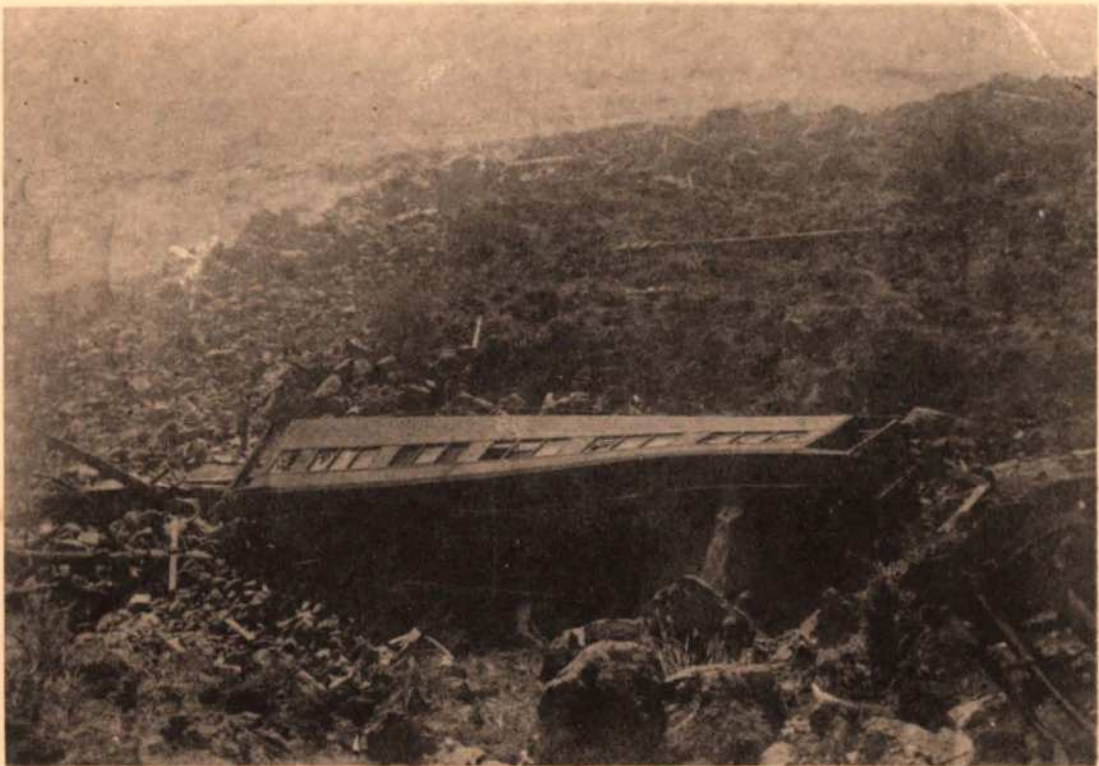
道 隧 線 海 熱

害て於に口入其に様何どん殆もれ何は道隧く如の圖てしに況状の害被道隧谷牧の道鐵るあに内地村浦片
りた得なるな全安は部内てにみのるれ被を



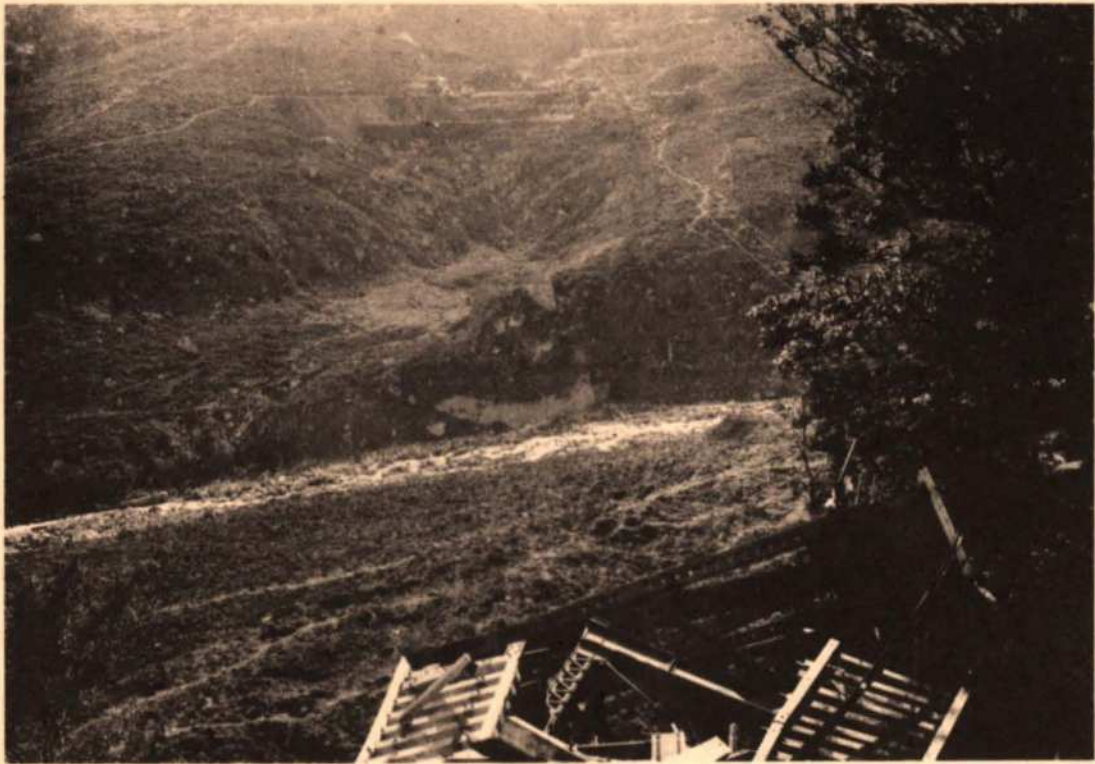
場車停川府根

石岩方下部左てしにれ崩山の近附場車停川府根は圖、すとりな川府根はしりな甚激害被も最中の地災震りなのもるたれさ出し押しよ方右もれ何は家人の央中、所場るたれ埋の場車停は邊るた々累の



車列害被

もか恰し遇遭に震地てしとんら入に驛に將は車列り下るれ來し行進くべす換交と車列り上てに驛川府根りな車客一の中其は圖すら知を衛行其分部大し落墜に中海部全は車列め爲しりな上崖断の岸海



橋 鐵 川 糸 白

く無も何幾後成峻もしりな観壯る顔れらけ架てし斷横を空の落部川府根てしに梁橋大一中線海熱道鐵
上央中、橋鐵留残るせ落墜はるな前手中圓、りたれら去び運に中海く遠し落墜め爲の浜津山と震地てし
りな部根の脚橋るせ留殘は部中、に道陸の岸對は部



川 府 根

没埋を部全どん始め爲の浜津山るたれさ出し押しよ奥山の町數十てしに間分數々僅後震地大は落部川府根村浦片
りな地生登の浜津山は山のか遙央中、のもるせに露をみの根屋く漸てし没埋は家人の手中圓、りたれらせ



前 全

のしるため眺りよ岸對を景全の落部び及塙車停川府根



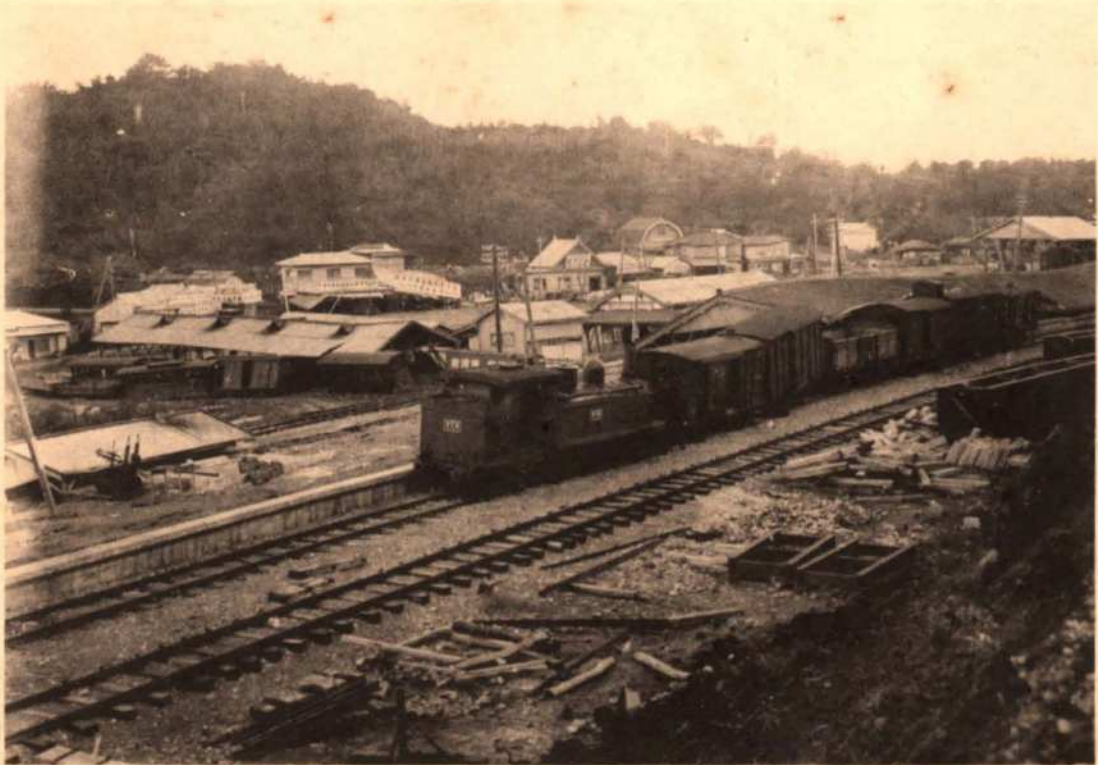
前 全

は砂土き如の山部土、れそは物人の名數部下、てしに景光るせ掘發を家人るたれらせ没埋め爲の浪津山
りなるたれさ出し押しよ奥山



車 列 害 被

汽め爲るを避遣時して出みの車籠汽こが僅りよ道壁は車列り上しせとんら入に驛川府根もか恰際の震地
りた得をるな事無てに内道壁部全は車客もしらめ埋りよに壊崩の口道壁は車籠



場 車 停 鶴 真

の車もしめ録を況盛帯一近附し吐吞を客の面方海熱原河湯は場車停本し道開差鶴真は線海熱道鐵前災震
りれ蒙を害災るた憐憫く如の圖てに問



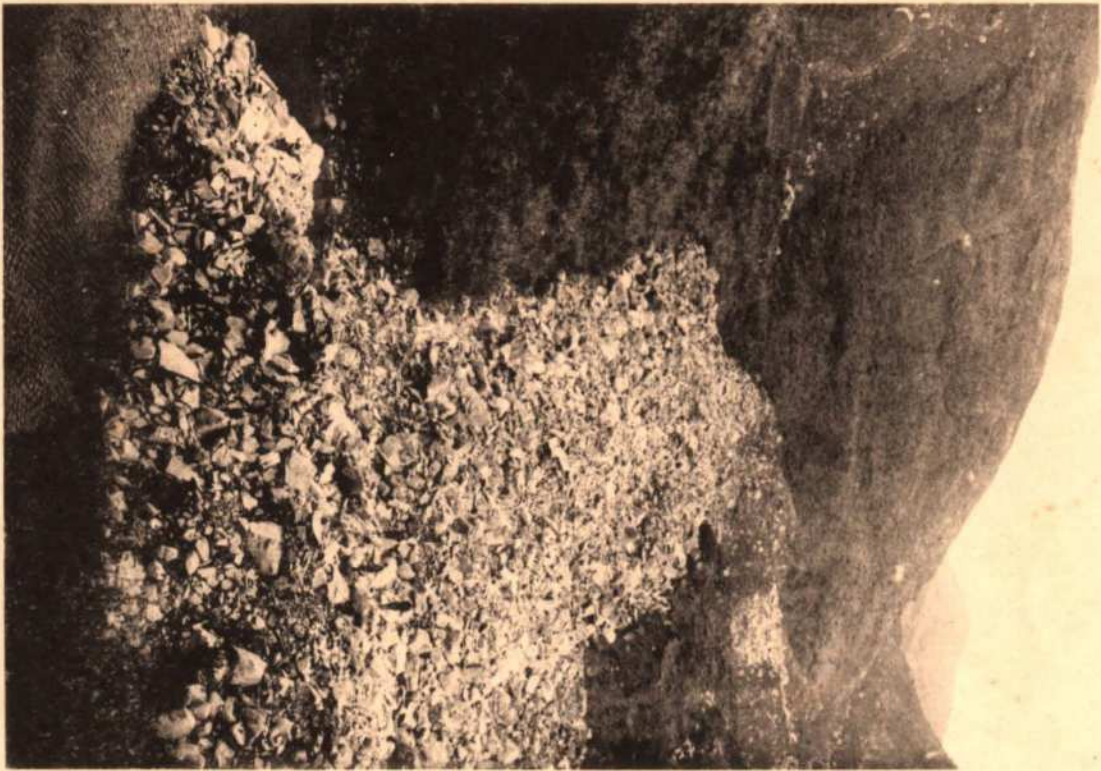
前 全

イ示を等斜傾の壁土凝混、潰倒のムーホトツラフ内構場車停軌真



川 屋 治 假

下ばせ潰缺朝一し成形を水湖大一てれき斷遮め爲の石岩るたれき出押しよ面側に流上川屋治假の村廣吉
りな程るたれば遺氣とやす非に、るらせ失流部全は家人の流



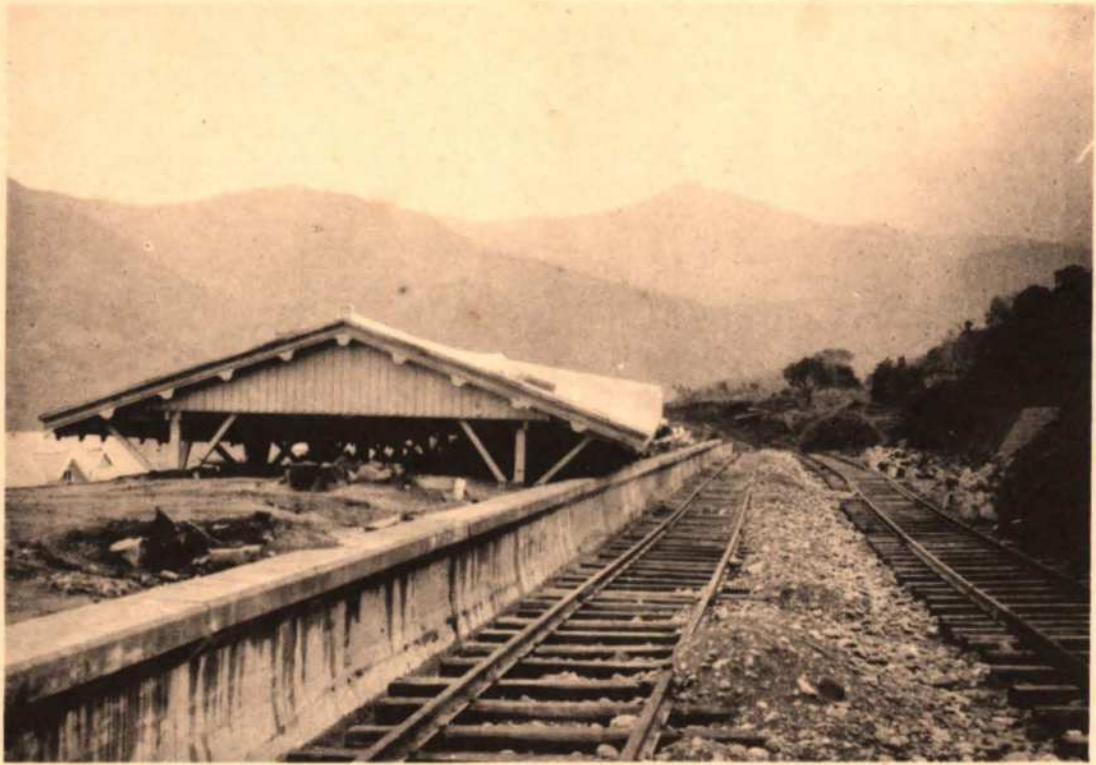
前 全

昔の源の浪津山川府模度丁龍山のか遙面前は深てしにわ流の石岩るせ斷崖を川屋治殿
しへるなか明てし較比と物入るで立に部央中はかるな大に何如の石岩、りれ當に面



前 全

隅れり持支てりよに面觸接のか僅然偶石岩大るせ落轉りよ頂山てしに觀奇るけ於に流上川屋治殿くじ同
りせ星を情風んか動ばれる



湯河原停車場

湯河原停車場は、同様に構内トラップの被害、地震に遭つて人へ迎へる汽車を將し成落築新其は湯河原駅
及及びの埋没等を示す



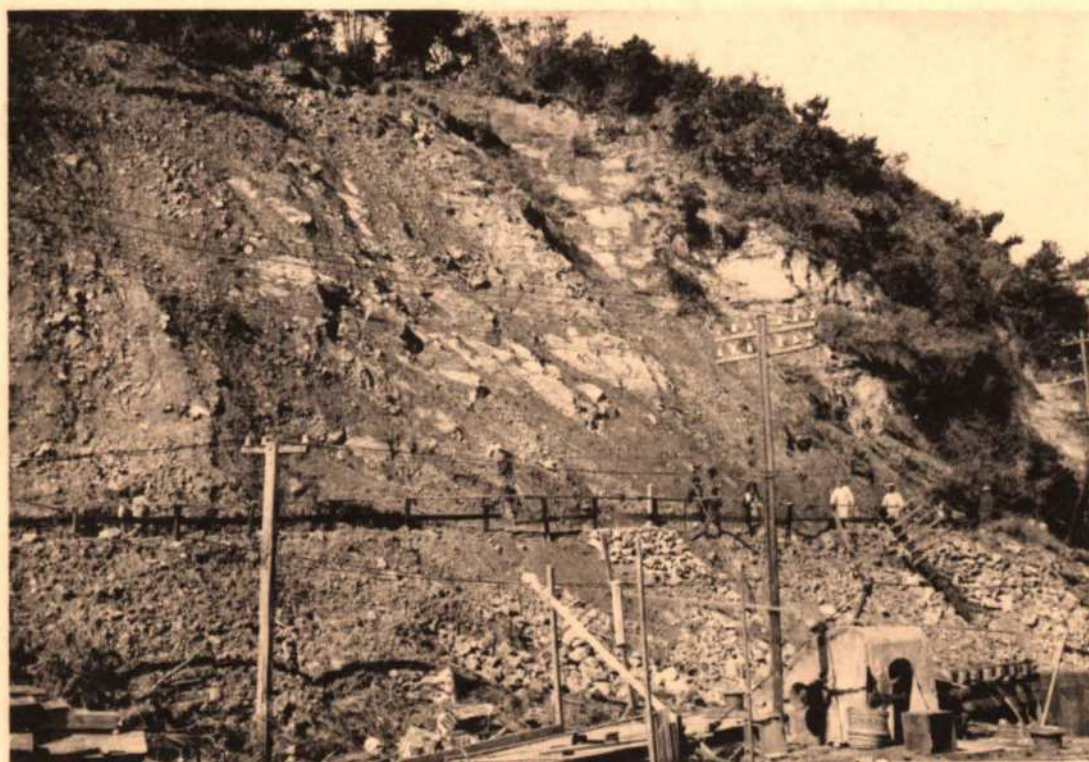
湯河原

湯河原は、依に被害甚るな微なるを得た、同様に湯河原入口の崩壊の爲め閉塞せられた
た。しに之以外に大なる災害はな



町 賀 浦

りな所場るせ出を者傷死し没埋を家人の數多てしに況狀のれ崩山畑蛇町賀浦



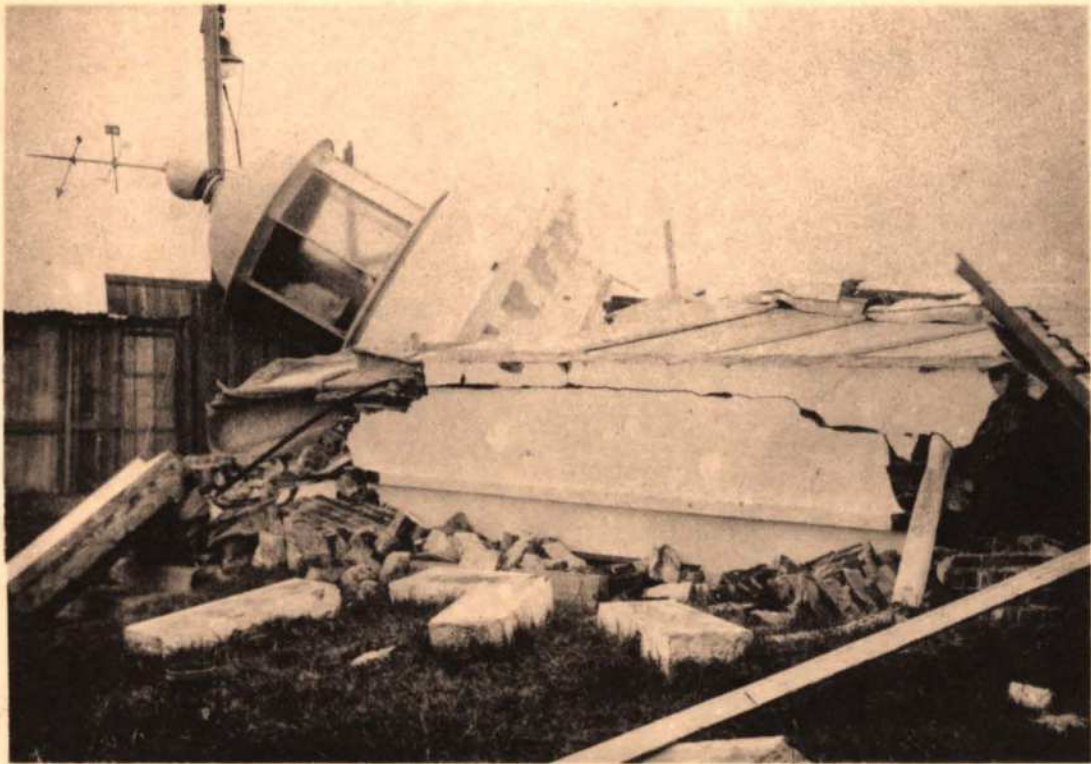
前 全

りせ出な者死没埋の名數もてに處此てしに所場るせ潰欠の道縣近附社會渠船町戸谷の町賀浦



前 全

りな状態の近附谷ヶ大町賀浦



台 燈 嶋 ヶ 城

りな様有るせ覆轉の台燈るあに嶋ヶ城町崎三



町 崎 三

るな則規不き如の圖に帯一はに岸海じ減を深水の内港け丈夫し起隆上以尺匹盤地其め爲の窟地は町崎三
りゝ至にるす出露を礁岩



前 全

りな眞寫きべす續連へ方左圖前



前 全

りな館同ち則は手右てしに況實の害被近附館陽碑館旅町崎三



前 全

示を部一の害被るけ於に岸海町崎三



橋 戸 森

りなり造土凝混筋鐵部全てしに梁橋の道縣るあに町子運



市 賀 須 横

も最中のれ崩崖等之は圖、りれ撃した害災のれ崩崖外る依に災火め爲るせ在存に處る至地崖はに内市賀須横
りせ出を者死埋の數多てと事しりな中行運客乗の車列るせ着到に縣賀須横らか折てしに町港るため極を鼻慘



像 銅 頭 部 播 井 伊

程度十三約め爲の置地は像銅の頭部播井伊にあに園公山郡部市濱旗
にく知解るさび忍にる見を喚叫鼻阿もか恰りて轉廻に共と石塞



像 迦 釋 の 川 府 根

像迦釋るたれら影に巧く知の圖はに石然自るあに元根脚纏の播銀川府根
りたれさ出の洗び再もしれらめ埋く深て以を砂土め爲の孤津山度一りあ
と事るれ曲く遺物の銀軌るたれ埋下上

大正拾四年四月三十日印刷
大正拾四年五月五日發行
大正拾四年九月廿五日再版發行

編纂者

神奈川縣橫濱市伊勢町二丁目

榊 井 照 藏

發行者

橫濱市西戶部町八〇五番地

儀 部 俊 平

發行所

橫濱市西戶部町石崎壹七八〇番地

神奈川縣 震災寫真帖頒布事務所

印刷所

東京丸の内數寄屋橋際

株式會社 青雲堂印刷所

東京灣要塞司令部
橫須賀鎮守府 許可濟

